

米川幸余

ピアノリサイタル

Sachiyo Yonekawa Piano Recital

孤高の作曲家 *Medtner* への誘い Vol.2

Program

ショパン F.Chopin

マズルカ Op.24-1/24-2/41-1/7-1/
56-2/17-4/63-2/63-3

Mazurkas Op.24-1/24-2/41-1/7-1/56-2/17-4/63-2/63-3

ノクターン 第7番 嬰ハ短調 Op.27-1
Nocturne Nr.7 *es-moll* Op.27-1

ノクターン 第18番 ホ長調 Op.62-2
Nocturne Nr.18 *E-dur* Op.62-2

スケルツォ 第2番 変ロ短調 Op.31
Scherzo Nr.2 *b-moll* Op.31

メトネル N.Medtner

20世紀最大のソナタ

ピアノソナタ ホ短調 Op.25-2

Klavier Sonate *e-moll* Op.25-2 "Nacht Wind"

「夜の風」

※都合により曲目が変更になる場合がございます。

使用楽器

1887年製 Vintage Steinway CD54957 タカギクラヴィア株式会社所有

2016. **9/4** (日) 開演14:00
(開場13:30)

上野学園 石橋メモリアルホール
Ishibashi Memorial Hall, Ueno Gakuen

全席自由 一般 3,000円 / 学生 1,500円

※未就学のお子様の入場はご遠慮下さい。※学生券は25歳以下、公演当日に学生証提示要。

●主催 お問い合わせ

ベルガ企画 050-3702-4110

●チケット取扱

e+ (イープラス) <http://eplus.jp/> (PC・携帯共通)

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

●後援: 学校法人上野学園 文化庁芸術家在外研修員友の会
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ビティナ)

桐朋学園音楽部門同窓会 関西桐朋会

●協力: タカギクラヴィア株式会社



Sachiyo Yonekawa

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部演奏学科を卒業。
その後、文化庁芸術家在外研修員としてオーストリア国立・モーツァルテウム芸術大学に留学した。第54回日本音楽コンクールピアノ部門入選。第12回クララ・ハスキル国際コンクール入賞。第10回ロベルト・シューマン国際コンクールピアノ部門第2位入賞。第1回台北国際ピアノコンクール入賞。1992年財団法人 Sony Music Foundation 主催の Performance Today シリーズでデビューし、日本各地での演奏活動を開始する。1998年大阪文化祭賞を受賞。
フォンテックより「スカララッティ：ソナタ集」(FOCD3430)、日本コロムビアより「Cantilena カンティレーナ〜ピアノ小品集」(QACK-30003)のCDをリリース。
これまで根上倫子、中博子、岡本美智子、有賀和子、中島和彦、ゴールドベルグ・山根美代子、大西愛子、ペーター・ラング、ブライアン・ランボート、ジェルメヌ・ムニエ、アンジェイ・ヤシンスキ、ドミトリー・パシキロフの各氏に師事した。
現在 上野学園大学短期大学部准教授、愛知県立芸術大学非常勤講師。
<http://sachiyo.world.coocan.jp>

リサイタル「孤高の作曲家 Medtnerへの誘い Vol.2」によせて

メトネルは大衆受けしない、ある意味地味な存在でありながら、しかし一部の人は熱狂的に支持されているという独特な味わいを持つ作曲家である。

メトネルの作品に出会ったとき、始めはその音楽にピンと来なかった。一度聴いただけでは記憶にとどまりにくい主題、凝りに凝って多声部が絡み合っている様はとっつきにくわかりにくい。しかし繰り返し聴いていく中で、やがてそれは難解なものから親密なものへと変化し、その奥深さに気付いた私はついにメトネルの音楽の虜になってしまった。特に今回取り上げる「夜の風」は20世紀最大のソナタと言われる演奏時間も35分という長大な作品で、譜読み、暗譜にも時間がかかる厄介な曲だ。にも拘らず、私は「この曲を弾きあげるまでは死ねない」と思わせられるまでにこの曲に魅了されてしまったのだ。そこに至るまで50回、100回と聴いたが…。

多分私は人生の折り返し地点をもう折り返している。気力も体力も若い頃とは違う。いつか、そのうち…と置いていたら人生終わってしまう。なのでまるでエヴェレストにでも登るようだとその難しさを承知しながらも、この大それた決心が萎んでしまわない内にこの大曲に挑むことにした次第だ。

演奏されることが滅多にない「夜の風」を弾くというのも今回のリサイタルの特徴だが、特別な楽器を運び込むという点でもこだわりがある。この演奏会では1887年製の Vintage Steinway CD54958ローズウッドをお借りする。ピアノは同じメーカーの同じサイズでも一台一台違う。このピアノを試弾させていただいた時、そのロマン溢れる音色に強い感銘を受けた。弾き手にインスピレーションを与えてくれる正に特別な名器である。この曲を弾いたらどうなるだろう、と次々とロマン派の作品が私の手から紡ぎ出されていった。そしてその時プログラムの半分はショパンを弾こうと決めた。

図らずもメトネルとショパンは共に作品のほとんどがピアノ曲という点で似通っている。二人ともピアノの名手であり、孤高の作曲家である。日本でも特に愛されている作曲家ショパンと、きっと初めてお聴きになる方も多いであろうと思われるメトネルの「夜の風」を、特別な楽器でお楽しみいただけたらと思う。

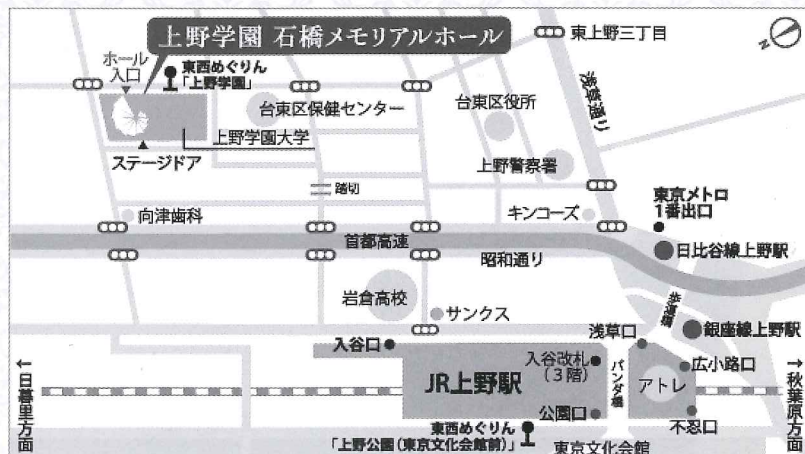
米川幸余

「メトネルは一人の語り部を得た」ムジカノーヴァ 岡田敦子氏による批評

ここ十数年ほど確実に再評価されつつあるメトネル(1880~1951)を中心に据えた米川幸余のリサイタルは、演奏もプログラミングもきわめて秀逸な一夜であった。(中略)

どの曲も完全に掌握され、作曲家によって音色と世界が変わる優れた演奏ばかりだったが、とりわけメトネルはこれ以上弾き込むことはできないと思われるほど弾き込まれており、メトネル特有の錯綜した声部がそれぞれ自在に動き、全体としてきわめて複雑な音響を呈しながらも音楽のメッセージが大胆に伝わってくる、滅多に聴くことのできない見事なメトネルの世界だった。

メトネルは、とするとどこか不自然で自己耽溺的な演奏に陥り、結果的に作品そのものの評価を下げてしまうような危険性のある音楽だと評者は感じるのだが、そのような杞憂のまったくない、音色的にも表現的にも充実感あふれる演奏で、メトネルが作曲書法的にも表現内容的にも真に畏怖すべき作曲家であることが示された。メトネルは一人の語り部を得た、と確信できる演奏会だった。(2014.9.23王子ホール)



石橋メモリアルホール(東京都台東区東上野4-24-12) アクセス

- 電車 ● JR各線「上野駅」入谷改札より入谷口から 徒歩8分
● 東京メトロ・日比谷線/銀座線「上野駅」1番出口より 徒歩8分
- バス ● 台東区循環バス<東西めぐりん(浅草方面)>「上野駅・上野公園(東京文化会館前)」より乗車、「上野学園」にて降車、徒歩0分、行きのみ。
(めぐりん：所要時間10分、15分間隔で運行)
- 専用駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。